

報告書名：新聞に掲載された口腔関連情報の量的・質的検討：8020 運動におけるメディアの主体的活用を目指して

研究者名：内藤真理子、中山健夫

所属：京都大学大学院医学研究科社会健康医学専攻系健康情報学分野

【目的】平成13年度8020推進財団助成研究（主任研究者・内藤真理子）において、近年の口腔関連情報量全般の増加が報告された。そこで、口腔分野の情報提供の現状および特性を明確化することを目的に、口腔分野の中の1テーマである「歯周病」に焦点をあて、口腔以外の医療分野の1テーマである「糖尿病」を対照として、それぞれの関連情報を量的および質的に比較検討した。

【方法】一般活字メディア情報のデータベースを使用し、2種類の体系的な情報検索を実施した。まず、「歯周病」あるいは「糖尿病」を見出しに含む記事について、対象紙は全国紙および地方紙の60紙、検索対象期間は1988年から2002年として検索を実施し、得られた記事の量的な経年的推移を検証した。

次に、1992年から2002年までに朝日新聞、読売新聞、毎日新聞、日本経済新聞の4紙に掲載された記事を対象として新たに検索をおこない、得られた歯周病関連記事（歯周病記事）101件、糖尿病関連記事（糖尿病記事）674件についてはランダムサンプリング等で173件に絞り込み、比較検討した。さらに、企業の製品広告を除いた各々の記事66件および168件について、詳細な内容分析をおこなった。

【結果】1988年から2002年において、60紙中「歯周病」あるいは「糖尿病」を見出しに含む記事割合は、両者とも全般に増加傾向にあった。「歯周病」は1990年と1991年にとくに割合が増加していた。「糖尿病」の割合の伸びは大きく、「糖尿病」と「歯周病」の占める割合の差は1997年以降拡大する傾向が認められた。

1992年から2002年までに4紙に掲載された記事の検索結果から、歯周病記事は2001年、1992年、1993年に記事数が多く認められた。掲載月は6月が最も多く、全体の17.8%を占めた。文中に「8020」の記載のあった記事の割合は全体の6.1%であった。2001年6月以降の記事には「歯槽膿漏」の記載は認められなかった。

両者の記事分類の比較では、歯周病記事において企業の製品広告が34.7%と糖尿病記事の2.9%と比較して高い割合が示された。

企業の製品広告記事を除いた検討では、糖尿病記事と比較して歯周病記事に疾患の紹介を含むものがより多く認められた。専門家の談話は歯周病記事の引用情報の情報源としてより多く認められた。記事中の情報の出典・出所については、糖尿病記事では93.5%が記事中に情報源が明記されており、確認可能であったのにくらべて、歯周病記事では62.5%とより低い割合であった。

【考察】口腔保健の啓発活動を進める上で、提供情報の質に配慮しながら量的な増加を図っていく必要性が示唆された。糖尿病記事との比較で、歯周病記事では疾患の紹介や解説記事が多い反面、記事内容の多様性にやや乏しい状況がうかがえた。年間を通した様々な形での情報発信に向けて、メディア側の口腔保健への興味や意識を高めるための歯科医療者側からの積極的な働きかけも重要と思われた。

次段階として、メディアの種類や関連情報の範囲を広げながら分析を進め、情報の送り手と受け手のありかたを目指すべき方向についても検討を加えていきたい。